



平成31年全国山火事予防運動統一標語 「忘れない 豊かな森と 火の怖さ」

山火事を防ぎましょう

林野庁によると、一年間に日本で発生している山火事（林野火災）は、1年間に約1,400件発生し、焼失面積は約800ヘクタール、損害額は約5.8億円となっています。1日あたりにすると、全国で毎日約4件の山火事が発生し、約2ヘクタールの森林が燃え、1,600万円の損害が生じていることとなります。

山火事の約7割が冬～春先（1～5月）にかけて発生しています。これは、冬は落ち葉が積もり、季節風が強く、特に太平洋側は乾燥しやすい状態になるといった自然条件が重なること、行楽や山菜採りのために山に入る人が増加したり、農作業に由来する枯れ草焼きなどが山林に飛び火することも原因となっています。

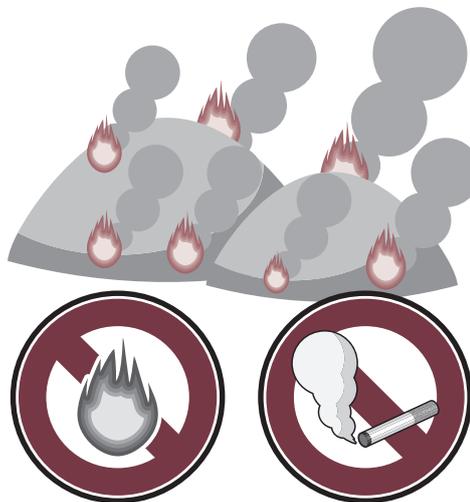
当本部では、昨年の林野火災は1件のみですが、枯れ草焼きなどが起因のその他火災は11件発生していて、昨年の火災件数の約半数近くを占めています。



注意すること

山火事の原因のほとんどが、ちょっとした火の取扱いの不注意で発生していることから、一人ひとりが防火意識を高めることが最も大切です。

- ・ 枯れ草等のある火災が起こりやすい場所ではたき火をしないこと
- ・ 火気の使用中はその場を離れず使用後は完全に消火すること
- ・ 強風時や乾燥時にはたき火をしないこと
- ・ たばこは指定された場所で喫煙し吸い殻は必ず消し投げ捨てないこと
- ・ 火遊びはしないこと



お詫びと訂正

広報常陸大宮2月号のFDHに掲載した、救急発生状況の年に間違いがありました。お詫びして訂正します。正しくは、発生した年は「平成30年」でした。

■問い合わせ■ 消防本部 ☎54-0119